

安全な暮らしを守る 「なくそう、こわい火事」

本単元で育成する資質・能力

課題発見力・論理的思考力・コミュニケーション能力

1 要 旨

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領第2章各教科第2節社会の第3学年及び第4学年の内容(4)に基づくものである。

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

本小単元では、災害として主に火災を取り上げ、火事から人々の安全な暮らしを守るための、消防署や地域の人々の働きや願いについて、自分の生活と関連付けて追究することをねらっている。また、見学・調査の対象が「市の取組」「地域の取組」「学校の取組」「自分の取組」と調べる対象を徐々に自分へと近づいていく授業の組み立てになっている。「市の取組」について調査した視点や考え方を活用して、「地域」「学校」「自分」へと場面を変えて調査したり、話し合ったりする活動を繰り返すことで、社会的な事象への見方・考え方を育成することができる単元である。

(2) 児童観

本学級の児童は、アンケート調査によると社会科の学習について、調査活動や、実生活を振り返って見直すことが楽しいことを理由に、85%の児童が好きと答えている。しかし、観察・資料活用の技能について、1学期のテストの通過率は83%と他の観点より5ポイントほど低く、グラフの特徴や変化の様子を読み取ったり、写真やイラストから必要な情報を選択したりする学習が不十分であったことが分かる。

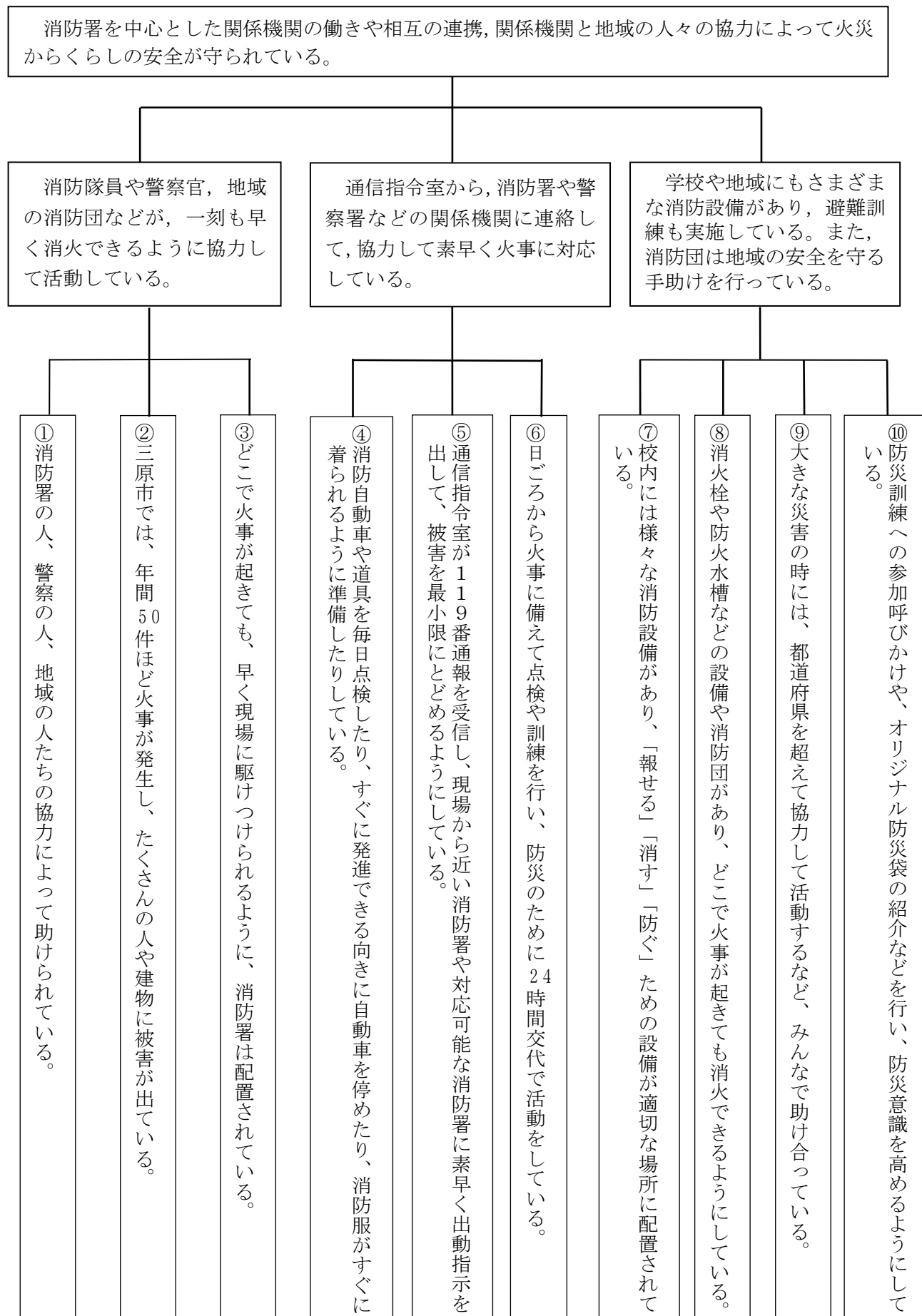
本単元に関わる児童の実態として、三原市の消防本部が昨年の秋まで本校に隣接していたため、サイレンの音や消防隊員がトレーニングをしている様子を、児童はよく目にしていた。しかし、市民の命を守るために日々トレーニングしているという目的までは考えていない。また、7月の豪雨災害に伴って、災害が起きた時には消防隊や地域の人々、他市町からの救助隊、ボランティアの方が協力して活動していることは、テレビのニュースなどで知っている。しかし、実際に自分の生活に直結した問題ではなく、社会の仕組みとして捉え、考えるには至っていない。

(3) 指導観

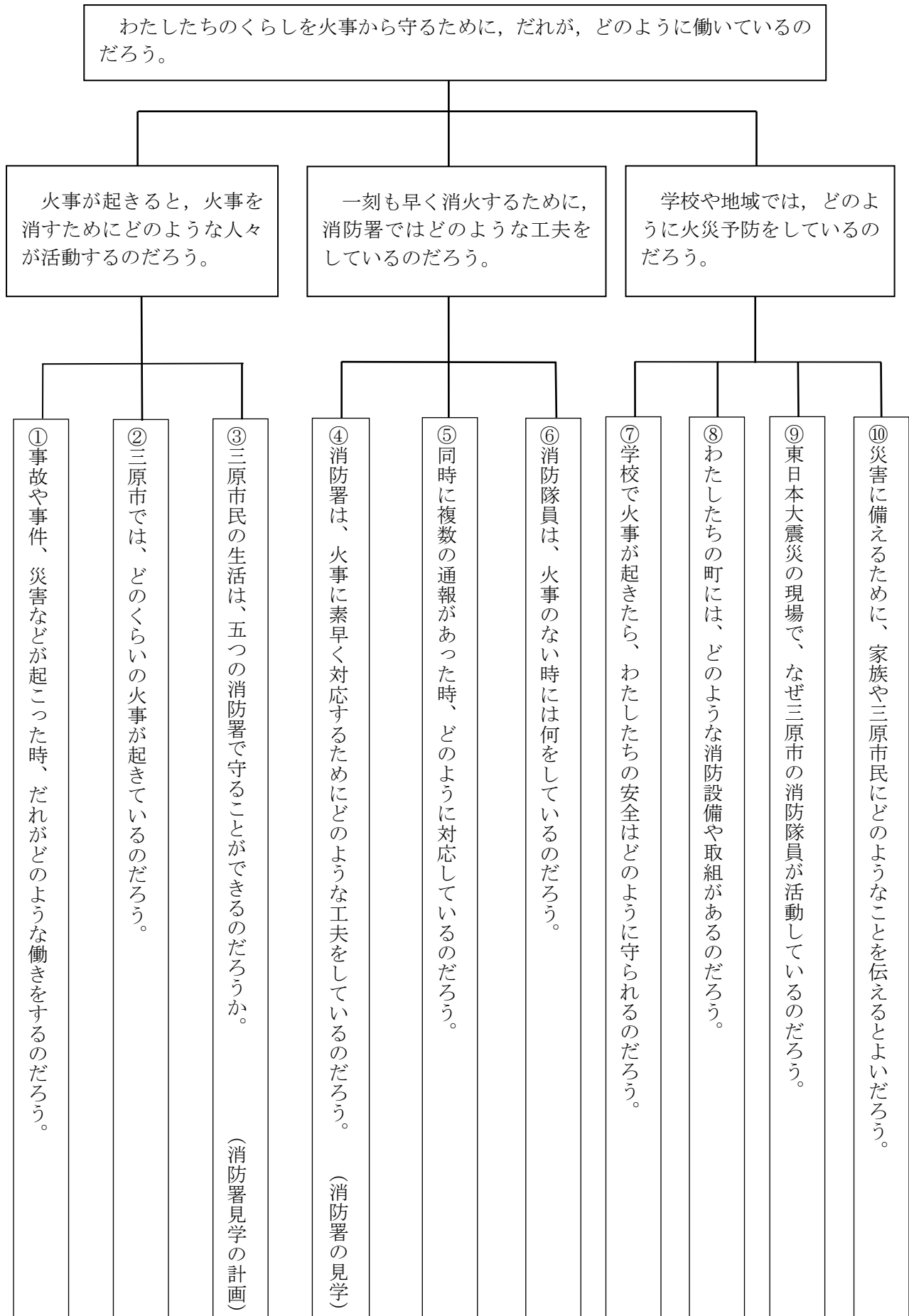
指導に当たっては、「消防署は、どのようにして火事からわたしたちのくらしの安全を守ってくれているのだろうか」という単元の課題を設定し、解決の見通しをもって授業に臨ませる。単元を見通すことで課題意識を持続させたい。また、既習事項を学習の足跡として掲示することで、「市の取組」について調査した視点や学び方を振り返りながら、「地域の取組」「学校の取組」においても、同じように考えることができるようにし、社会的な見方・考え方を育成し、社会科へ対する興味・関心を高められるようにしたい。

本時では、119番通報の仕組みについて考えさせる。消防署見学时に遭遇した2件連続の救急車出動の場面を想起させ、あの時もう1件通報があったらどうしていたのだろうか？という見学後に児童が抱いた疑問から学習をスタートする。通報が重なった時の問題点を出し合い、そうならないための119番通報の仕組みに目を向けられるようにしたい。問題点を解決する方法を考えさせることで、119番の仕組みについての理解を深めさせたい。児童がたくさんのアイデアを出し合う中で、お互いの意見の相違点を見付けたり、よりよいアイデアを思い付いたりしながら、協働して学習する楽しさを味わえるようにし、社会科の学習に対する興味・関心を高められるようにしたい。

2 知識の構造図



3 問いの構造図



4 単元の見聞

○災害に備えて、地域の安全は互いに協力したり、共に助け合ったりして守ること、自分も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であるという自覚をもつことができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○災害から人々の安全を守る消防署などの働きを調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

○災害から人々の安全を守る消防署を見学したり調査したりして具体的に調べ、見学、調査した過程や結果をノートにまとめることができる。

【観察・資料活用の技能】

○災害から人々の安全を守るために、消防署で働く人々や関係諸機関が、地域の人々と協力して災害の防止に努めていること、相互に連携して緊急に対処する体制をとっていることを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】

5 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	地域社会における災害から人々の安全を守る工夫に関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分も地域社会の一員として、地域の人々の安全な生活の維持について考えようとしている。
社会的な思考・判断・表現	地域社会における災害から人々の安全を守る工夫について学習課題や予想、学習計画を考え、表現し、人々の安全を守るための関係諸機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能	関係諸機関が相互に連絡を取り合いながら緊急に対処する体制をとっていることを、消防署を見学したり調査したりして具体的に調べ、見学、調査した過程や結果をノートにまとめている。
社会的事象についての知識・理解	消防署や関係諸機関が相互に連絡を取り、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。

6 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

課題発見力	三原市の火事の現状を調べ、消防署の人たちは、どのようにして火事を早く消したり、防いだりしているのかという疑問をもち、調べたいことを明確にさせる。
論理的思考力	広域消防区内で、素早く消火活動にあたるための119番通報の仕組みについて、三原・尾道広域消防区の地図や通信指令室の写真を結び付けて考えている。
コミュニケーション能力	友だちの発言と自分の考え、生活経験を結び付けたり、みんなの考えをまとめたりしながら話したり、聞いたりする力を育てる。

7 本単元で児童に身に付けさせたい表現

時間	平成〇年から火事の件数は・・・ 通信指令センターへ通報がつながることで、出動までの時間が・・・
空間	消防署がかたよりなく配置されているのは・・・ わたしたちの町の消防設備は・・・ 早く火事現場へ移動できるように、消防隊員は・・・
人間	火事を減らすために、消防署の人たちは・・・ 消防隊員と協力して、消防団の人たちも・・・ 災害に備えてわたしたちができることは・・・

8 指導計画（全14時間）

次		学習内容	評 価				評価規準 (評価方法)	資質・能力 との関連
			関	思	技	知		
【自分発】 であう(2)	第一次 課題の設定	①写真や映像を見て、 地域社会で起きている 様々な事件・事故や災害について 話し合う。 (1)	◎				地域社会で起こる事件・事故 について、資料から分かること や体験したことを結び付けて 考え、安全な暮らしをつくる ためのしくみや人々の働き に関心をもっている。 (ノート・発言)	コミュニケーション能力
		わたしたちのくらしの安全はどのよう にして守られているのだろうか。						
		②三原市の火事に関 する統計資料から、 火事の件数や原因 について話し合う。 (1)			◎		年間で50件ほどの火災が発 生しており、人や建物への被 害も多い。気を付けていても 火事を皆無にすることは難し いと表現している。 (ノート・発言) 三原市の火事の現状を調べ、 消防署の人たちは、どのよう にして火事を早く消したり、 防いだりしているのかという 疑問をもっている。 (話し合いの様子・振り返りシー ト)	課題発見力
		消防署の人たちは、どのようにして火事か ら私たちのくらしを守っているのだろう。						
【社会経由】 ふかめる(10)	第二次 情報の収集 整理・分析	③三原市民の生活は 五つの消防署で守 ることができるの か考える。 消防署見学で確か めたい内容を考え る。 (1)	◎	○			消防署は、どこで火事が起き ても早く現場に駆けつけられ るように配置されていると表 現している。 (ノート・発言) 消防署見学で調べたいことを 「設備」「施設」「人」の視点 で考え記述している。 (見学カード) 消防署で早く消火するための 工夫について「設備」「施設」 「人」の視点を明確にして予 想している。 (ノート・発言)	論理的思考力

【社会経由】ふかめる（10）	第二次 情報の収集 整理・分析	④消防署を見学し、早く消火するための工夫を見付ける。 消防署の見学で発見した早く消火するための工夫についてカードにまとめる。 （3）		○		◎	消防署の施設や設備、工夫に付いて見つけたことを見学カードにまとめている。 火事を早く消火するための仕組みや工夫について理解している。（見学カード）	
		⑤ 119番通報の仕組みを調べ、火事に素早く対応できる通信指令室の役割や関係機関との協力体制について考える。 本時（1）		◎			通信指令室で119番通報を受けることで、出動に適した消防署を選んだり、どのような消防自動車を何台出動させるのかを指示したりして、どのような火事の通報にも対応できるようにしていると表現している。（ワークシート・発言） 広域消防区内で、素早く消火活動にあたるための119番通報の仕組みについて、三原・尾道広域消防区の地図や通信指令室の写真を結び付けて考えている。（ノート・発言）	論理的思考力
		⑥ 消防隊員の一日を調べ、それぞれの仕事内容やその目的、仕事に対する思いについて考える。 （1）		◎			消防隊員は、火事の被害を最小限に食い止めるために24時間交代で勤務し、点検や訓練だけでなく防火指導も行っていることを表現している。 （ノート・発言）	
		⑦ 学校の消防設備を調べ、校舎配置図にまとめる。 出火から消火までの流れについて調べ、消防設備の役割や重要性を理解する。 （2）		◎	◎		消火器、消火栓、火災報知設備などを校舎配置図にまとめ、配置の特徴に気付いている。（配置図・ノート） 校内の消防設備の役割と重要性を理解し、それぞれの設備のよさについて表現している。（ノート・発言） 出火から消火までの流れと、消防設備の働きを結び付けて考えている。（ノート・発言）	論理的思考力
		⑧ 地域の消防設備や消防団の働きを調べ、地域を守る消防団員の思いを考える。 （1）			◎		地域にも、たくさんの消火栓や防火水槽があり、火事に備えている。また、消防団は、自分たちの地域は自分たちで守るという強い意志を持って防災に努めていると記述している。（ノート・発言）	

		⑨ 東日本大震災の現場で、三原市の消防隊員が活動していた理由を考える。 (1)		◎			日本は自然災害が多い国であり、大きな災害のとき、消防署の人たちが都道府県をこえて協力、活動していると表現している。(ノート・発言)	
【自分行き】 まとめる・いかす (2)	第三次 まとめ・創造・表現	地域の一員として、自分たちにもできる防災活動を考える。 (2)		◎			防災活動への参加、地域の避難場所の確認など、地域の一員として、自分たちにもできる防災活動を考え、表現している。(ノート・発言)	

9 本時の学習

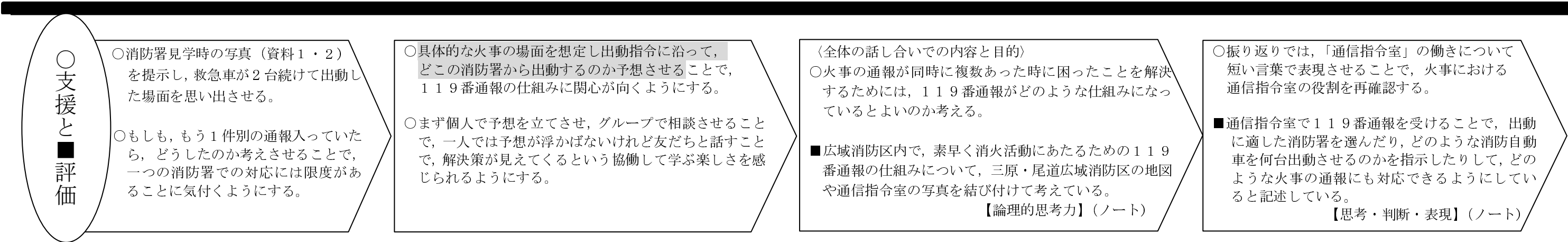
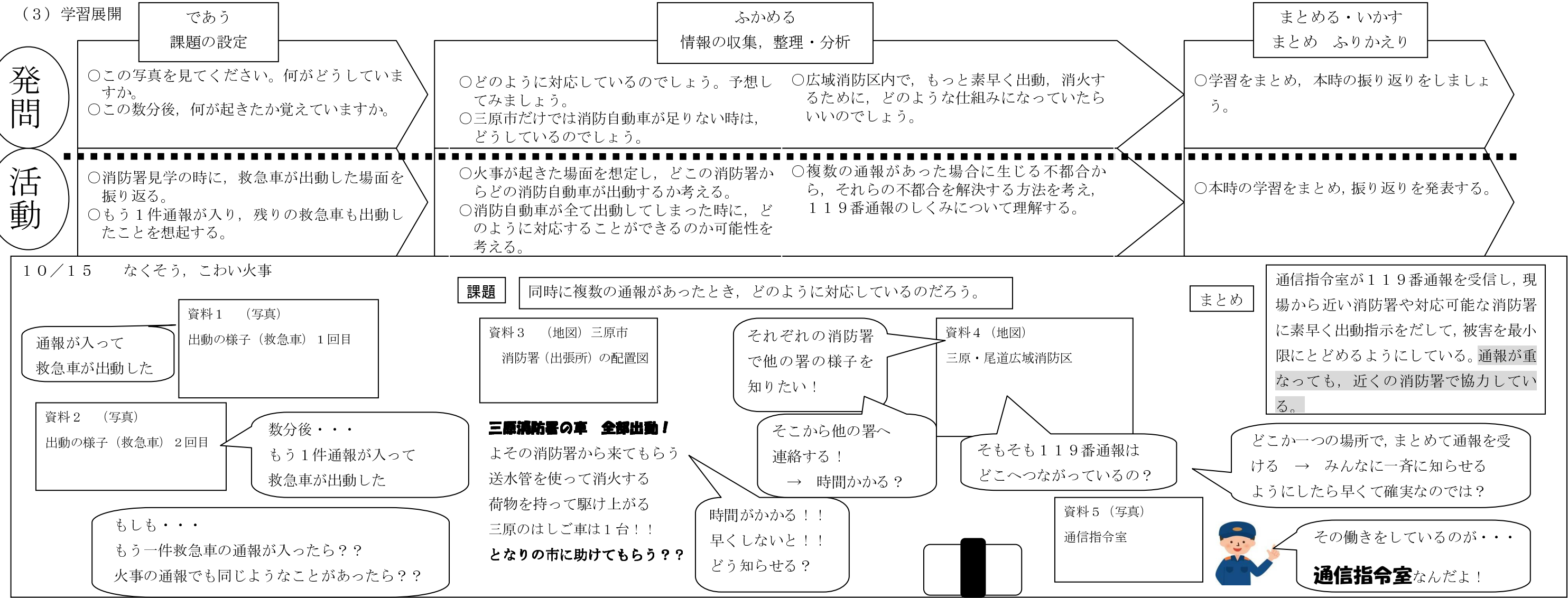
(1) 本時の目標

具体的な火事場面での消防署の出動の様子を考えることを通して、119番通報の仕組みについて理解し、説明することができる。

(2) 本時の評価規準

通信指令室で119番通報を受けることで、出動に適した消防署を選んだり、どのような消防自動車を何台出動させるのかを指示したりして、どのような火事の通報にも対応できるようにしていると記述している。

【思考・判断・表現】



10 理想のシナリオ

○提示する資料 ☆資料のポイント	理想のシナリオ	○指導上の留意点
○救急車が出動する時の写真 (消防署見学時) ☆2件連続で救急車が出動し、救急車が消防署にいなかったことを想起できるようにする。	T 1 5日の金曜日に消防署見学に行きましたね。その時の写真です。覚えていますか C 1 見学の途中で通報が入って、救急車が1台出動しました。 C 2 しかも、その後すぐにまた別の通報が入って、もう1台の救急車も出動しました。 T 2 そうでしたね。出動の放送が入った時、消防署の方々はみんな表情が変わって、とても緊張感がありましたよね。 C 3 三原消防署には、救急車は2台しかいないのに、もしあの後もう1回119番通報が入っていたら、どうなったのだろう。 T 3 救急車は全部出動中だから、待ってもらうのでしょうか。 C 4 通報した人も、早く助けてもらいたいから救急車を呼んでいるのに、そんなの待てません。 C 5 三原消防署に救急車がいなかったら、別の消防署から救急車を呼べばいいと思います。 T 4 本当ですね。三原消防署の救急車が帰ってくるまで待ってられませんよね。別のところから救急車に来てもらう！これはいい考えかもしれません。 C 6 救急車で、このようなことが起こっていましたね。火事の通報でも、同じようになることが起きるかもしれません。 C 7 もし、同時にたくさんの火事の通報があつたらどうするのだろう。 T 5 そうですね。以前に書いた調べたいことリストの中に、その疑問があつたのです。〇〇君が、書いていました。〇〇君、どうですか？ C 8 僕は、火事が同時に起こったら、どのように対応するのか知りたいです。 T 6 今日の学習課題ができそうですね。 C 9 「同時に複数の火事が起きた時、どのように対応しているのだろう。」です。	○消防署見学時の写真を提示し、想起できるようにする。 ○見学を欠席した児童に対しては、本時に至るまでに、2件連続救急車出動の話をしておく。 ○「待ってもらうのか。」と問うことで、消防の仕事は一刻を争うものであるということを再確認できるようにする。